

平成24年度東京都公民館連絡協議会
第2回委員部会報告

平成24年10月22日(月) 報告者・本市中央公民館運営審議会委員 村上 浩

- 1 日 時 平成24年10月6日(土) 午後1時30分～4時
- 2 会 場 国立市公民館地下1階(会議室)
- 3 参加者 40名(本市の参加者・倉田会長職務代理、村上)
- 5 会 次 第 第1部 講演会 (13:30～14:35) <はじめの挨拶含む>
第2部 グループ討議 (14:40～16:00) <質疑応答、挨拶を含む>
- 6 講演会内容(要旨)

「地域社会の変化とこれからの公民館の役割を考える」

-西東京市での地域づくりの実践-

講 師:小笠原東生 氏(田無公民館長)

■平成24年度事業方針(要旨)

- ・…地域住民の生活課題や地域課題を見据え、効果的な学習機会を提供し、市民の主体的な学びを支援する…<抜粋>

【重点目標】

- ①防災意識の向上を図るための事業展開(3.11を反映して)
- ②積極的なロビー活用(すごく大事)
- ③情報提供機能の有効活用
- ④新しい利用層の開拓(最初の仕切が高い。ヒューマンアプローチが必要)
- ⑤利用者懇談会の充実(200団体、しかしいつも同じ顔ぶれ)

【西東京市の公民館事業】

- ・もう一度原点に立ち返り、指定管理を拒み続けるだけではなく事業内容を洗い直す。新しい西東京市公民館の在り方(一あるべき公民館の機能・役割一)
 - ①市民の「ホームベース」としての機能 (象徴)
 - ②地域の学習拠点としての機能 (学ぶ)
 - ③市民のつながりの場としての機能 (結ぶ)
 - ④市民生活の情報センターとしての機能 (発信)

【公民館事業のサイクル】

- ・PLAN(計画)・DO(実施)・CHECK(評価)・ACTION(実行)
- ・事業評価について…経年評価(長期的視野に立って)運営管理評価、備品評価、

■実践例の紹介

1 小学生のための国際理解講座

- ・年間事業計画の中に継続事業として位置付けている。(谷戸公民館の特色事業)
- ・担当職員と市民スタッフの育成を図っている。(市民の協力は欠かせない)
- ・オリジナルなものにする。(学校とどう事業に組み込めようか)

2 親子星座観望会

- ・年間事業計画の中に継続事業として位置付けている。
- ・学校教育の星座観察授業と社会教育の夜間学習体験との融合…学社連携
- ・中学生以上を対象としている、青年教育講座「星座観察セミナー」の受講者を、当講座の運営スタッフに組み入れる。(公民館職員が何もかも丸抱えせず、協力する市民を育成している。)

3 地域で創る教育ネットワーク講座

- ・問題行動を起こす小中高学生に対して、対処療法に追われた反省を踏まえ、直ちに適切な人と連絡が取れる信頼ある人間関係を、日常的に地域の中で育んでいく。またそれを地域の人達と一緒にアクションを起こすことが重要である。
- ・地域課題の見つけ方
 - ①抽象的なものを避け、具体的な事象を手懸かりにして課題を整理し講座運営する。
 - ②職員が地域に出掛け、直接話し、教育問題を地域と共有化する。
青少年教育を考えること、見直すことは、未来を再構築する事であり、閉塞して未来が見えない現在日本の教育再生に、多くのヒントに繋がる。

■グループ討議(50分、内容は省略)

①形式…8人編成(計5グループ、倉田委員は第5、村上は第4)

②テーマはなし、自由に討議。(第4は)

- 司会者のもと、
 - ・各自の自己紹介…委員になった切っ掛け、委員年数、委員数 自市の公民館の事業の紹介、年間の委員会回数等
 - ・本日の講演内容に関する感想や意見、また、委員個々への質問等

③全体会での各グループの討議内容の発表はしない。

■全体会(約25分、講演会に対する質疑応答)

主なもの2点(内容はあまり聞き取れず、コメントのみ)

①教育ネットワークについて

(かつて勤務していた中学校に創設した、ホリデーネットワーク(HNW)を強く思い出します。生徒の問題行動に危機感を抱き、今も存続しています。)

②職員の異動について

(本日の提言と共通している。)